

1974

HARLEY-DAVIDSON XLH

Owner: FUTOSHI TSUCHIYA Text by: SOUICHI OKAWA Photos by Fly Wheels
Special Thanks to SURESHOT Tel: 043-443-0077 URL: www.sureshot.jp



起伏に富んだアイディアに 緻密なモディファイ

一見、飾り気のない極々シンプルなルックスながら、その実、ツボを押さえた緊密な一体感が緊張感を漂わせ、まさにシンプル・イズ・ベスト、という言葉がそのままに当てはまるシチュアショット製作の74年XLHアイアンスポーター。「見た目は奇をてらわないオーソドックスなスタイルと見せかけて、全てのパーツが計算しまくりの配置で、パッと見て好き嫌いの別れないカッコ良さを心がけた」というだけに、全体のバランスを考慮した矯正で軽妙なセンスが随所に溶え込んでいる。これはディテールの一つひとつに神経を行き渡らせることによって初めて成しえるものであり、オーナーとショップという信頼し合っている両者が、互いのアイディアと感性を遠慮なく発揮し、作り上げた結果とっていいだろう。

もちろんルックスのみならず走りもマストポイントとして製作。回すと振動で車体が分解しそうなアイアンをどれだけ

長く安心して乗れる車体とできるかを熟慮し、現代の技術を用いなく投入しているのが大きな特徴といえる。前後の足として使え、さらに快適にロングツーリングもこなせることがオーナーの拘りだけに、ハードチューニングはせずにローコンプ化。さらにエンジン、トランスミッションなどを全てリビルトするのはもちろん、できる限り耐久性を向上させるために、WPC加工やアーマープレーティング加工など最新の表面加工をピストンやシリンドラーに施すことで、走りにおけるポテンシャルを最大限に引き出し、イメージ以上の乗りが実現されているのだ。これによって4年経った現在も1日で800kmの弾丸ツーリングもこなせるほど、走りに没頭できるマシンとなっている。「ルックスと走り」という2つのテーマをチョッパーという表現の内実と結びつけたアイアンスポーター。オーナーの起伏に富んだアイディアとビルダーの緻密なモディファイ……これらが高次元で融合することで、このマシンは生み出されている。スポーツスターが持つ文字通りスポーツ性能を引き出した現代を生き抜くアイアン、その手本と呼ぶべき一台といえよう。



① 19インチ BOLLAN アルミホイールに、タイヤは FRESOTIME ANS 4.00-19。ブレーキは HD レプリカ・ローターにグリメカ2ボディを装着。② ハンドルは K&N スーパーバーをナロード。グリップは大神戸実業堂ワックル。グリップに仕込んだボタンで簡単に点火キーがリターンモードになるようセットされている。③ スリムなフューエルタンクはワンオフ。④ ラグ追加

工と排気パイプを追加したKRレプリカのボルトオン・ハードテールを装着。⑤ リアフェンダーとストラット共にワンオフ。ウィールは 18インチ BOLLAN アルミホイール。⑥ オイルタンクは HD KLICH で、フューエルタンク同様ラバーマウント化。⑦ レザーシートは STUDIO WORKS 製のワンオフ。⑧ メーターは HD エルマッキを流用。



⑨ ハードチューニングはせずにローコンプ化し、出来る限りストレスがないように組み上げた 1000cc エンジン。WPC 加工したVTピストンやサンダース・アーマープレーティング加工したシリンダーなど、現代の技術を惜しみなく採用している。マフラーはワンオフ。ちなみにミスマッチだった元

のクラシクケースは状態が悪く、レプリカがないため、もっとも前面で程度の良いケースを手入して組み立てる。⑩ SAS スーパーキャブセンターに、大神戸実業堂ショートフォンタム。⑪ 女達が不自由なオーナーに合わせてリンクagesをワンオフで作り、ブレーキとシフターを右側にまとめている。